感謝の心と崇拝の心とは〝信仰心〟のこと

日本ホメオパシー医学協会

とらこ先生の新春特別トーク

2020年これから時代を生き抜くために

〝全てを愛する〟

今年の書初めの言葉

日本ホメオパシー医学協会の新春特別トークが1月4日午前10時30分から東京・用賀の同協会3階会議室でライブ中継され満席の状況の中、開催された。席上、由井寅子名誉会長は「2020年これから時代を生き抜くために」と題して講演した。その講演を紹介する。（編集局）

今年の書初めは「全てを愛する」

由井名誉会長

2020年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。

年始から米国とイランの衝突など大変なことになりましたけれど、「全てを愛する」今年、このような誓いを立てました。自分の悪口を言っている人とか、私たちの行動に対して反対する人たち、そういう人達も含めて愛したい。去年は「全てに感謝」でしたけれど、今年はもう一段上がって「全てを愛する」です。私がちょっとでも愛せなくなっていたら、「とらこ先生、愛してないよ」。是非注意していただければありがたいと思っております。

私も年始には信州・長野に行きました。日本晴れの本当にいい天気でした。去年は台風や洪水など災害も多く大変でしたね。今年の正月は風もなく穏やかな幕開けとなり、山に登りました。それは太郎山という1200mぐらいの山です。正月は毎年山に登ってますが、しっかり温泉に入ってからふにゃふにゃになった状態で午前10時ぐらいに出発しました。凄く良かったです。どんどん登って行きましたが、真っ青な青空なんですが青空に突然雪が降ってくるんです。あれ不思議だなと思ったら実は樹氷が太陽の熱で溶けて溶けたところからパラパラ、パラパラ落ちてくるんです。それがなんか光ながら落ちてきて地面がその樹氷でいっぱいになっていました。これ全部樹氷できれいだった。眼下の上田市にはあの氾濫した千曲川がとても氾濫したとは思えないぐらい穏やかにキラキラ、キラキラ光って流れていました。こういう山に登ったから自分の魂が喜んでいました。特に胸突き八丁の気持ちで登って行った後にこんな美しいものを見せていただいたからです。

この樹氷は、氷の神様、風の神様、太陽の神、空気の神様。この4つの神様が織りなさないと生まれなかったものです。こういう所に神や仏が見いだせるようになったら幸せになるのではないかと思います。信仰心を上げて小さな事に喜びを持てるような心根をもって頂きたいと心から願っています。

感謝の心や崇拝の心が溢れ出すとき、魂が喜んでいるということです。感謝の心と崇拝の心とは、信仰心のことです。人は、どんなものにも神様、仏様を見いだす事ができます。喜びはそこからじゅうに転がっているのです。どこまで気付けるか？　その鍵が信仰心にあります。

素晴らしいレメディー発見

6月7日に京都でシンポ

太郎山を登らさせて頂き、自然の中でいろんな所に神様、仏様がいると感じたわけです。

太郎山に登る前に、近くの山家神社に初詣に行きました。元旦だというのに誰もいない。だけどそこから出る気、プラナは凄いんです。何事も浄化せずにおられないみたいな神社でビックリしました。そこにひっそりと立っていて何故ここはこんなに気が高くなったんだろうと。いにしえの人々がものすごく信仰をその神社に手向けたその余韻がまだ残っているから、崇高で気が高い神社になっているのではないかと思います。今の私たちが神社に参拝に行き、感謝と畏敬の念を捧げないと私たちの子孫がその余韻に与れなくなってしまいます。私が生きている限り、自分のできる範囲で日本の神社仏閣を神聖な場所として存在し続けるための努力をしようと心から誓いました。

信仰心というのは人が生きる源だと思います。昔の人は何のために生きるのか、その答えが分かっていました。信仰心は自分が目指すべきものから生じる純粋な願いです。神さま仏さまのような存在に自分も一歩でも近づきたいという思いです。私は修行するなかで信仰心が増え、本当に幸せになりました。神様仏様を信じてそこに向って修行をしている中でとても幸せになったのです。神様仏様を見いだせないのは曇った心のせいです。曇った心とは、私は駄目だとか、あの人ばかりとか、嫉妬とか憎いと思う気持ちとか。自分はすごいぜと鼻高々になったり、このような心によって神様仏様が見えなくなっているだけと思います。でも大丈夫、今は途上なんだから。私も途上ですからね。ですからその途上の中で出来ることを精一杯やることが大事だと思います。このような信仰心についてのお話を信仰心パート2として、去年の秋から最後は12月に東京で行いました。2月からの全国講演ツアーでは、また違った形で話していきたいと思います。

難病の患者さんも私もそうでしたが、ご神仏さまに手を合わせて祈るようになってから幸せになっていった人が多いです。どこかの宗教団体に入れということでなく、崇高で高潔な存在に感謝と尊敬の心をもって、そのような存在に近づくような生き方をしてほしいということです。そして、先祖、周りの人々、ものにも素晴らしい所を見出し、感謝と尊敬の気持ちをもって生きてほしいということです。

それでも現実に様々な問題がありますので、これら問題点をピックアップした講演もしたいと思っています。そのテーマの1つが歴史です。つくられた偽の歴史ではなく俯瞰的な史実に基づいた歴史認識を持つことはとても大事です。2月11日建国記念日の午後2時から、私からねずさん（小名木善行さん）にこれからインタビューした2時間の映像を見ていただく企画を行います。明治から150年、日本の近現代史を俯瞰的に解説頂きます。というのも日本の本当の歴史を知らない人が多すぎるからです。その為、私たちが両親そこからつながる先祖にも感謝できなかったり、自己卑下になったり罪悪感になる傾向が強かったり、そのことで心が病気になったり、自殺する方々が絶えず少子化の問題にもつながっていると思います。

2月11日と15日の午前には、様々な霊山や神社仏閣の水をホメオパシーの希釈振盪を使ってレメディーにすることで、物質的には全く同じ水であるにもかかわらず体・心・魂に違った特性で作用する素晴らしいレメディーになる発見をしましたので36の水のレメディーについての講演をします。

今年のもう1つのテーマは腸です。1月25日午前にはCHhom東京校でホメオパシー病理学の公開講座「腸内細菌、腸は語る」を行います。セロトニンという、あなたが喜びやほんわかする気持ちを感じるホルモンをつくりだす腸内細菌がいたり、ドーパミンというやる気をあげるホルモンやミトコンドリアを活性化する腸内細菌がいます。抗生物質が安易に使用されるとセロトニンやドーパミンをつくる腸内細菌がダメージを受けます。加えて抗生物質でもある除草剤グリホサートやワクチンに含まれている有機水銀やアルミニウム化合物なども腸内の善玉菌優位の環境にダメージを与えます。喜べない、やる気がでないなどこれほど鬱病が多くなったことと抗生物質の使用拡大、食の問題による腸内細菌のバランスの崩れと大いに関係していると考えています。そしてそれは、土壌細菌のバランスの崩れと大いに関係していると考えています。

6月7日には京都で、「土と腸は大事！」をテーマに第9回の日本の食と農業を考えるシンポジウムを開催します。私たちの農場では農薬や化学肥料が使われていない腐葉土から収集された約500種類の菌である「豊受御古菌」を培養して落ち葉堆肥とともに土壌に撒いて農作物を作っています。土壌菌の中にもセラトニンやドーパミンを作り出したり、ミトコンドリアを活性化する菌がいます。腸内細菌の環境と土壌菌の環境はそっくりです。

豊受御古菌、農・環に

3月26日、マイナビで講演

最近穏やかになったねとよく言われるようになりましたが、実は農場にまく「豊受御古菌」を6ケ月前から飲んでいます。「豊受御古菌」と組み合わせた腸内細菌を意識した食品や飲料を開発・販売したいと考えています。また、福島県の阿武隈川氾濫後の床上浸水のアパートにも「豊受御古菌」をまくとひと晩で改善、木の香ばしい香りに改善しましたので農業だけでなく環境にも「豊受御古菌」を使っていきたいと思います。こう言う事を今度6月7日のシンポジウムで伝えようと思っていますのでぜひご来場ください。

今年は、腸が赤血球を作るって本当にその通りなんですが、腸内細菌がないと赤血球も出来ないし、その赤血球が組織を作って組織が全体を作って体を作る。この素晴らしい説を証明した千島先生の千島学説、腸造血説にも光を当てたいと思います。同時にフランスの故ベンベニスト博士が証明したアポガドロ数を超えて希釈震盪して原物質が1分子も残っていない状態でも水は情報を記憶し伝える性質を証明した博士の功績にも光を当てたいと思っています。また今年はTORADIOというインターネットラジオ局を開設して、『とらこ先生の人生相談』を放送していきます。相談者も募集していますがぜひこちらもお聞きください。

3月26日11時20分から東京・浅草橋ヒューリックホールで開催されるマイナビ農業のイベントで講演させて頂くことになりました。農業の未来を明るくし農業人口を増やそうと頑張っておられるマイナビ農業にも通じる自然型農業から農業も地域も日本も元氣にする日本豊受自然農の構想を発表したいと思います。

10月3日、4日 JPHMAコングレス

10月3日、4日の第21回JPHMAコングレスでは、2020年の集大成のケースを出して行きます。日本の農業の問題も大きく取り上げていきたいと思います。農業問題は人類の命に関わるテーマです。中でも種子は守っていかなければいけないと思います。ゲノム編集も、自然を逸脱して直接的にDNAをいじくり回すことで、人間ごときが手を出してよい領域ではないと思います。

私達が賢くならねば

迷ったら自然に戻ればいい

例えばあんなに予防接種被害が出ているのに、国を挙げて予防接種を遂行しようとするのは何故だろう。海外に比べ日本で使用可能な食品添加物が突出しているのは何故だろう。ここをよくみんなで考えなければいけません。添加物を入れたり、作る人達、農薬を作る人達、ワクチンを作る人達、ゲノム編集や遺伝子組み換えを推進する人達。ご神仏さまは彼らを愛して応援しているのです。何故だろうと考えました。私たちがこのようなものはもういりません。病気は怖れませんからワクチンはいりません。感染症にかかったら、寝てればいいんだからもう抗生物質はいりません。癌があるということは、我慢した感情がやまほどあるということだから、インナーチャイルドを癒すことが、抗がん剤より大事になります。私たちが賢くならなければいつまでも彼らは存在し続けます。ですからそこは私たち病気に対する恐れ、人から嫌われる恐れ、社会から疎外される恐れ、その恐れによって私たち自身が自分を粗末に扱ったり、自分で責任をとる方向から逃れ、悪者を作り攻撃してきたことを理解しなければなりません。大根が出来なかったらどうしよう。自分の畑から病気が発生したらどうしよう。その恐れによって農薬を撒き、化学肥料を撒いています。しかし捨て場所に困った化学兵器が農薬に化けて日本に売られただけです。こう言う事実も農家がしっかり理解し自分たちは自然型農業でやって行くよ、となっていったならば必要無くなりますから、自ずと消えて行くんです。それを教える為に彼らは存在しています。そこをしっかり理解して自然と共に生きるにはどうしたらよいかを常に考え、迷ったら自然に戻ればいいのです。そうしたらそこには必ず答えがあります。

10センチ運動を

自信と自分を信じること

今後の講演会でもお話ししたいと思います。これに気付かないと人類は先がないのかなってと思う事もありますが、如何なる時にも一縷の望みと一縷の光を求めて、例えば豆電球でも一隅を照らす、一隅を照らす、その豆電球に向ってね。光があるからこそ、また人が、人を導く事が出来ます。

例え豆電球でも灯し続けてください。共に豆電球同士で合体しましょう。そうしたら大きなキロワットになるかもしれない。希望を失わないように生きていって欲しいと思います。

信仰心の深い日本人

まあ海外も日本を狙っているという中でなかなか不穏な動きもあります。江戸時代に海外の方が来られた時に言った言葉があります。この民族はなんか非常に貧しい民族なのにみんな幸せそうだと多くの方が手記に残しています。そしてね、外国人を見ようとみんなもう呉越同舟でわいわいみんな来て、こんなのが外国人なんだって感じで、それを止めているのは縄1本だった。そしてちょっと出てくると紙のハリセンで叩かれると。この国の連中は縄1本で紙のハリセンでコントロール出来るんだと。そのように海外の方々はおっしゃっていました。みんな貧しい。だけどみんなニコニコ笑っている。礼儀正しい。何故このように言われたのでしょうかね。

それは日本人は自分も含めてみんな神様仏様だと言う事を感じているからこそ尊敬するわけですね。だからたった縄1本でここから入っては駄目と言ったらそこにいるんですよ。そんなの海外ではそんな事あり得ないです。銃でもって制覇しないと出来ないですね。だから私はこのような信仰心の深い日本人を素晴らしいと思っているわけです。

金銭的には貧しくても、でも、心、魂は貧しくない。あなたが満ち足りればあなたがこれで幸せだと思えばあなたは幸せに生きられるわけです。その幸せに生きるコツが生かされているんだと言う事。大自然の八百万の神々にいかされているんだということの謙虚で感謝出来る心。これこそが信仰心だと思います。

2020年は10センチでいいですから、自分の限界を超えることに挑戦してみましょう。

「あー、私アトピーがあるからちょっとみんなと旅行に行けないわ。山、登れないわ」。でもやってみるんだよ。途中で辛くなってどうしようもなくなったら帰ればいいわけだから。やってみないとわからないです。

「あー私股関節悪いから山登れないわ。でも途中まで行こう、行ってみようよ、行けるかもしれない」。これが自分の可能性の閾値を上げる、10センチでいいから上げて行こう。これを10センチ運動と言います。で、また来年もさらに10センチ上げて行こうと思います。

私の恐れだった

私も潰瘍性大腸炎だったので、高速道路に乗ると非常に不安になってました。何故かというとトイレがないから。昔は車に乗らず電車で行きたい。電車だったらトイレがあるから。如何なる所も電車で行きたい。飛行機で行きたくない。だってベルトで縛られているし嫌だし。遠いところでも列車で行こうとしていました。それが私の恐れだったわけです。

今は行きたくなったら路肩に止めてそこら辺ですればいいやという様な気持ちになってそうなると全然腹が痛まなくなったし、あんなに思案して、トイレが次のインターにはある。ここで何分待つ。あんなに思案して計算していた私が馬鹿らしくなっていったのです。もうどうでもいい。したくなったら止めればいいし、山の中に入っていけばいいし。もうどうせ、駄目だったら車の中ですればいい。そんな死ぬような事ではないと思うのです。

潰瘍性大腸炎の頃はそういう事がわからなかった。本当に小さく、小さく生きていました。でもドライブに行こうと言ってくれているから行ってみようと。最初は1時間、次に2時間。だんだん行けるようになりました。持つべきものは友達ですね。素晴らしい友達がいると引っ張り出してくれますから。是非皆様、家に籠もってないで、行動して自分を大きくし可能性を広げていきましょう。

自信というのは自分を信じると言う事。そして神様を信じると言う事。だって皆さん自身が神様仏様なんだから。こんな事を私は2020年のこの元旦の日に申し上げたいと思いました。僭越ながら私の話はこれで終わりたいと思います。皆様良いお年を。

桜庭厚生の趣味のスケッチ

ツバキ

●あけましておめでとうございます。此処東京の下町に居を構えて四十八回目の正月を迎えた。近所に東京スカイツリーが出来て九年目になる。この電波塔を借景にした絵をこれ迄に何枚か描いてきた。今回は、今が盛りの庭のツバキを描いてみた●庭のツバキを見ると思い出す事がある。筆者は五十六年前、東京オリンピックがあった年に上京して来た。慣れない都会生活。ぎゅうぎゅう詰めの電車での赤羽線十条から池袋乗換で丸の内線霞が関までの通勤。無我夢中で過ごした一年間でした。うかつにも官舎の周りがバラの生垣だったのに気が付いたのは翌年の事でした。今では、切なくも懐かしい思い出だ。あれから五十年余が過ぎた。庭のツバキを見ると、あの時のバラの生垣とオーバーラップし「初心を忘るべからず」と囁きかけてくれているような気がする。

●ツバキの漢字は木偏に春を書いて「椿」。木偏に夏・秋・冬を書く漢字があるだろうか。木偏に夏を書く「榎」はエノキ（落葉喬木）。木偏に冬の「柊」はヒイラギ。辞書に「常緑喬木で庭木とする。葉は堅く光沢があり、縁にとげがある。材は印材、そろばんの玉などを作る」とあった。これら「椿」「榎」「柊」は知っていたが、木偏に秋を書く漢字に覚えがなかった。調べてみたら「楸」というのがあった。ヒサギと読む。辞書に「落葉喬木。葉は桐に似て、花は筒状、長さ三センチ位の、ささげに似た、さやの実を結ぶ」とあった。図鑑でも調べてみた●ツバキがきっかけで勉強になった。魚偏に春夏秋冬はご存知ですよね。

（さくら工房　主宰）

1月4日新春の集い

特別トークなど盛沢山

1月4日午前10時30分から東京・世田谷区用賀の日本ホメオパシー医学協会で「とら子先生の新春ホメオパシートーク」が開催され、本部会場始め札幌、洞爺、名古屋、大阪、福岡各会場も多くの人が参加してライブ中継された。

新春トークは、由井寅子日本ホメオパシー医学協会名誉会長の書初めで始まり、2020年の言葉は「すべてを愛する」。由井名誉会長は「10㎝でも自身が成長できるように心の支えに持ち続けていると語った。

多くの参加者は、この言葉に感銘。「1年のキーワードに」「チャレンジしてみたい」「自分が自然を愛していこう」「10㎝を乗り越えよう」などと感想を述べていた。

新年の乾杯は、ホットな豊受ソジュースと、農林61号クッキーで「弥栄！」。

会場は満員に

由井名誉会長は、今、我が国が直面している医療、農業、災害などの問題を取り上げ、これらの問題の裏側に隠された真実を取り上げ、日本を復興するために、今考えていかなければいけない大切なことを語った。

「誰かを責めるのではなく事実を伝えていきたい」と語りながら「多くの問題は、自然の摂理から離れてしまったことが原因であり、問題解決の鍵となるのは、不自然なものを自然の状態に帰すことです。その鍵は信仰心にあります」と力込めて語った。

この現代を深く考え、問いかけ、向き合っていく中で一つの結論に辿り着いたという。

その答えには、魂が震えるような感動があり、苦しい出来事も全て光に変えるような圧倒的な肯定があったと言う。

後半は、昨年2019年の由井名誉会長とChomの活動を映像にまとめたダイジェストを上映。全国での講演、農園ツアー、11月にはタイ王国での国際カンファレンス、12月にはJPHMAコングレスと数々のイベントをこなし、さらに学校の授業、日本豊受自然農での農作業まで行っている姿が映し出された。

その後、各地の年明けの模様を、函南六本松、洞爺、札幌、名古屋、大阪とリレー中継。特に今回は学生、商品を愛用している人々などが、それぞれの体験談、インナーチャイルド癒しの話を伝える場面もあった。

東京からは、豊受クリニックの高野院長が1年を振り返って「開設してから5年が経ち、今はこれまで以上の盛況ぶりを見せています」と新年のあいさつを行った。